

「外国映画の字幕を活用した英語学習について」

校長 博田 英明

生徒の皆さん、新年明けましておめでとうございます。校長の博田です。

３年次生の皆さんの多くは、来週末に迫った大学入学共通テストやこれから始まる一般選抜受験など進路実現のための本番がいよいよ始まります。１・２年次生にとって３学期は、年度末に向けて学習面でしっかり実力を蓄える大事な時期です。また２年次生は台湾への修学旅行も来週に予定されています。

さて皆さんはこの冬休みをどう過ごしましたか？ 先日の終業式で私がおススメした読書をして過ごした人もいることでしょう。また映画、特に外国映画を見て楽しんだ人も多かったのではないのでしょうか？ 外国映画は英語学習に最適な教材と言えます。私もこれまで英語の授業の中で英語に親しむための教材として、外国映画をたびたび使用していました。新年を迎え、今年こそ英語力アップを図ろうと思っている人も多いことでしょう。そこで今日は英語学習を進める上でのヒントについて皆さんにお話ししたいと思います。

皆さんは外国映画を見るときに字幕で見えていますか？ それとも吹き替えで見えていますか？ 映画の字幕は日本特有の文化だと言われています。海外でも外国映画に字幕が付くことはありますが、吹き替えが主流の国が多いそうです。ではなぜ日本では字幕が主流になったのでしょうか？ 字幕翻訳者の太田直子さんによると、日本語は「チラ見」でも意味がつかみやすいからだそうです。確かに日本語は漢字、ひらがな、カタカナの３種類を使って、メリハリが出せるため、瞬間的に中身のある程度つかめるメリットがあると思います。

私は字幕で映画を見ることが好きです。なぜなら俳優の生の声が聞けて、感情や雰囲気ガリアルに伝わってきたり、英語の独特な言い回しなどがとても勉強になるからです。では、外国映画に必要不可欠である字幕はどのようにして作られるのでしょうか？ 少女の頃から大の映画好きで、長い下積みの間に独学で力を付けて 40 年以上も字幕翻訳の世界で第一人者として活躍され、インディ・ジョーンズ、バック・トゥ・ザ・フューチャー、ジュラシック・パーク、フォレスト・ガンプ、タイタニック、ハリー・ポッターシリーズやミッション:インポッシブルなど手掛けた映画は 1,500 本以上にのぼる戸田奈津子さんのお話が大変興味深いです。

戸田さんの話によると、字幕にはまず 1 秒間に 3～4 文字という厳しい制約があり、見ている人の頭に自然に入っていくつつ、意味をちゃんと分かってもらわなければなりません。悲しみや怒りは世界共通で言語を超えて伝わりますが、「笑い」は文化が違うと理解できないことがあります。また映画の字幕というのは、人がしゃべるとパッと出て、しゃべり終わるとパッと消えることから、「しゃべっている間に読みきれぬ日本語にする」というのが一番の基本なので、何文字でも使ってもいい「本の翻訳」とは全く違うそうです。

1秒間に3～4文字ですので、3秒のセリフなら3×3で、9文字か10文字です。そう言ってもちょっと想像できないと思いますので、戸田さんが挙げた例をご紹介します。ちょっと長い文章ですが、2007年に公開された名優アンソニー・ホプキンス主演の『世界最速のインディアン』という映画の中で出てくるセリフです。インディアンというのは、アメリカンインディアンのことではなくオートバイのことで、アンソニー・ホプキンス扮する初老の男が、それに乗って世界記録に挑戦するというお話です。その彼が、こう言います―“If you don't go when you want to go, when you do want to go, you'll find you are gone.” ホプキンスはすごく早口で、これを4秒ぐらいでしゃべります。意味は直訳すると「行こうと思うときに行かなければ、本当に行こうと思ったときには、もう手遅れだよ」となります。これだと何文字ですか？ 日本語だと38文字になります。これをたった4秒で言っているのです、3×4で12文字か13文字ぐらいの字幕にしないといけません。戸田さんはこれを「やるときは、やるっきゃない」というような字幕にしました。ピッタリ、12文字です。字幕というのは字数制限の中で訳すわけで、これがほかの翻訳と全く違う字幕の一番基本的なルールです。

この講演会の最後に戸田さんが、英語を学んで上達を目指している人にアドバイスとして話していたのは、まず学習へのモチベーションです。何のために英語をやっているか、自覚が大切だということです。また文法、ボキャブラリー、書くことなど基本をしっかりやるべきことです。書いたことは紙の上に残って、自分がどこを間違えたのか認識できるので間違いを認識するというのが、学ぶということにつながります。さらに字幕翻訳の仕事でも、求められるのは80%が日本語です。字幕には日本語の力が必要です。それから最近はAIなど翻訳の精度がどんどん上がっていますが、人と人が生（ナマ）でコミュニケーションすることに人間の人間たる所以（ゆえん）があり、外国人との人間同士のいい付き合いを大切にするためにも、外国語を学んでほしいとおっしゃっていました。

最後に、デジタルネイティブの皆さんに私がおススメしたいのは、映像配信サービスを使用して海外ドラマや洋画を楽しみながら英語を勉強することです。中には、大部分の海外作品を英語字幕で見ることができて、英語字幕と日本語字幕を同時に表示できる機能を備えたサービスもあります。日本語も英語も同時に表示されていたら、日本語字幕でストーリーを追いながら、英語にも注意を向けることができます。私も最近ドラマを字幕付きで見て学習しています。皆さんも生の英語にたくさん触れて英語力を高め、戸田さんの英語学習へのアドバイスのように、英語の基本をしっかりと押さえ、日本語の力も高める努力もしてほしいと願っています。

今年度の締めくくりとなる第3学期が皆さんにとって実りあるものとなるよう期待しています。今年も健康第一で学習や行事・部活動に取り組みましょう。

以上で私の話を終わります。